

名古屋経済大学は留学生が数多く学ぶ大学であり、中でもベトナム人が最も多い。本稿ではベトナムの新型コロナウイルス感染防止対策について紹介する。本稿の情報はベトナム政府広報や医療省の発表、新聞報道による。

2020年4月28日現在のベトナムの感染状況は、感染者総数270人、退院222人、死者0人である。4月16～28日までの間、市中での感染者はなく、感染収束が近づいている。これに至る経緯は次のよう

ベトナムのコロナ感染対策

れに対応して、1月24日にベトナム航空局は武漢とベトナム間の全ての航空便を停止した。1月30日には、武漢から戻ったベトナム人の感染も確認された。この事例で6人の感染者が出たハノイ近郊の村は省により封鎖された。その後、2月14日～3月5日まで感染者は現れなかった。

第二段階は、中国以外の国からの入国者による感染である。3月6日、ロンドンから帰国したベトナム人と、その接触者の感染が確認された。ハノイ市は、この感染者の自宅のある通りの一部を封鎖し、市中感染の拡大を抑える対策をとった。この後、海外からの入国者の感染例が増加し

路入境を原則停止し、さらに、4月1日から15日まで、外出を原則禁止し全国民が相互に距離をとることを求める「全社会隔離」を実施するに至った。

ベトナムの感染対策が日本と異なる点は、まず、第一段階において中国との国境の封鎖や航空便の停止の判断が迅速であったことである。次に、感染者および接触者の追跡と隔離を第一段階から厳密に行ってきた点である。感染者に対応する病院を指定し、感染者の住所や移動経路を第一段階から非常に詳しく公開している。

地域の封鎖も辞さず

日本はアジアから学べ

のであった。

第一段階は、中国からの入国者による感染である。1月23日に、ベトナムで初めて、武漢から訪れた中国人の感染が確認された。こ



名古屋経済大学教授
金村 久美

かなむら・くみ 音声学、日本語教育、ベトナム語教育。名古屋大学大学院国際開発研究科。学術博士。

た。

第三段階は、市中感染の拡大である。3月20日には

感染者が入院するハノイ市内のバクマイ病院で院内感染が発生した後、3月30日に感染者が累計200人に達した。この事態を重く見たベトナム政府は次々と対策をとった。3月21日には国内の長距離移動を制限、3月22日には外国人の入境を原則停止、全ての入境者の14日間隔離を開始した。3月26日にはベトナム人の空

2月末には保健省が若い世代の歌手とタイアップして、感染防止対策を伝える歌やダンスをSNSで拡散して欧米でも話題になり、若者向けの啓発活動がうまくいっていると感じる。このような政策をみると、日本は欧米だけではなくベトナムをはじめとするアジア各国からも学ぶべきと強く感じる。(4月28日記)

